

町長と語るタウンミーティング 議事録(概要)

日 時：令和5年11月3日(金・祝) 19:00~20:05

場 所：いきがい創造センター 多目的ホール(2階)

テーマ：防災

参加者：5人(うち、子ども1人 ※ 幼児なし)

【司会】

本日は、第2回目の町長と語るタウンミーティングです。テーマは「防災」。

第1回目は、8月に「子どもの居場所づくり」をテーマに開催させていただきました。

「防災」については、いろいろな切り口があると思うが、切り口にこだわらず町長と皆さんとの間で活発な意見交換ができればと考えている。

【町長】

タウンミーティングは、皆さんとお話をしたいということで、今年度から始めさせていただきました。テーマを決め、そのテーマについてご意見を交換できたらと思っている。

先日、稲美町の防災訓練を、4年ぶりに実施させていただきました。その時もお話をさせていただきましたが、地震に関してはいつ来るかわからないということで、稲美町でも被害が出ることは予測できるところ。地震発生の際に何ができるのか、その時までには我々は何ができるのかということも含めて、お話ができたらと考えている。

今日は参加人数も少ないので、日頃、感じていることや不安に思っていることなどもお話いただきたい。また、私が聞いてみたいと思っていることもあるので、よろしくお願いします。

今日は、稲美町で作っている「総合防災マップ」をお配りしている。稲美町で起こりうる災害というと、まず、風水害、いわゆる台風とか大雨洪水。稲美町にはため池がたくさんあり、皆さんのお住まいの近くにもおそらくため池がある。ため池の性質上、堤体が地震で崩れたり、大雨で越水する可能性がある。そういった意味で、稲美町には大きな川がないが、ため池が多いことで他の地域とは違ったリスクもある。

よくご存知の方もおられるかもしれないが、今、私たちがいるこの場所は、実は断層の真上と言っても過言ではない。稲美町には草谷断層があり、その断層が走っている上に市街化区域があるということも頭の中に入れておいていただきたい。総合防災マップの23ページを開けてください。稲美町で起こり得る地震は、山崎断層帯と、もう一つ、草谷断層。左上の白地図に稲美町が赤色で示されており、そのちょうど真ん中を草谷断層が通っているのがわかる。この山崎断層帯と、それに連動して草谷断層が動いた場合は、震度7程度の揺れとなると予想されており、阪神淡路大震災とか、最近で言うとも熊本地震と同程度となり、大きな被害が出ると予想されている。地震発生の時間や季節にもよるが、建物全壊・焼失が5,677戸、死者数は353人と予測されている。

断層と聞くとどこにあるのだろうと思われるかもしれないが、総合防災マップ23ページの真ん中の地図で、天満大池の北側にも緑色の線で草谷断層が通っているのがわかる。そこから少し離れているが、六分一の辺りにも草谷断層を示す緑色の線がある。いつこれらの断層が、動くかわ

からない。草谷断層と山崎断層帯に関しては、地震の発生確率は非常に低い確率で表されているが、7年前に発生した熊本地震も発生確率は低いと言われていた。だが、断層が動くとなれば大きな被害が出てしまう。稲美町に関しても、もし草谷断層が動く、町の中心部が動くことになり、23ページの地図でもわかるように、町全体に対して震度7とか震度6の分布が広がっており、大きな被害が出るのが予想される。災害の想定をする際は、被害が最も大きい場合を想定するが、地震が起こった時に、皆さん生き残れる自信はありますか。震度6強から震度7という、耐震基準を満たしている家でない、必ずと言っていいほど倒壊する。寝ている時とか起きている時とか、状況はいろいろあるが、何か想像できるものはあるか。

【参加者】

不安だ。地震が起きるのは、早朝とか夜が多いように感じている。家の耐震基準はあれども、やはりすごく不安になる。阪神淡路大震災については、体感としては残っているので、ちょっとした揺れでも本当に怖いというのが先に立ってしまう。気が動転して本当にちゃんとした気持ちと行動を持って、すぐ対応できるかという、個人としても家族としてもやはり不安はある。

【町長】

よく言われることだが、まずは生き残るということをしないといけない。総合防災マップの25ページには「非常時の持ち出し品・備蓄品チェックリスト」の記事があり、26ページには、「住まいの耐震化」の記事がある。一般的に言われている耐震基準というのは、昭和56年で変わったが、阪神淡路大震災で、大きな被害を受けた建物のほとんどは、昭和56年5月以前に建築された木造住宅であり、耐震基準が変わった境目である。稲美町でみると、いわゆる古くからある家に関しては旧耐震基準で建てられた家だと思うが、耐震工事をした方がいいことはわかっているけれど、公的な補助があるからといってもある程度の個人負担もあるので、なかなか手が付けられていない部分もあろうかと思う。

【参加者】

阪神淡路大震災の時、私は45歳ぐらいだった。朝、家で起きる前に地震があったが、家の中に土埃が上がり、何が起こったかわからなかった。飛行機でも落ちたのかなと思った。私の家は築140年になるので、家が潰れると思い、皆で慌てて家の外に出た。その後、しばらく車の中で過ごした。震度5前後だったかと思うが、家の屋根が崩れたため、ブルーシートだけ屋根に掛けて、仕事に行ったことを覚えている。前日の夜には、焦げたようなくさい臭いがしたので、21時頃に家の周りを一回りした。山崎断層に近い所に家があるので、ガスが漏れていたのではないかと考えている。

【町長】

地震の前には、前兆として、あまり見かけない雲があつたりとか、気象状況が違ったりすると言う。臭いでよく聞くのは、土砂崩れの前に臭いがするとも言われる。

まずは自分、それから家族の命を守るというのが一番だが、稲美町に限らず、いわゆる災害弱者と言われる高齢者の方であったり、耳や目、足が不自由な方がいらっしやったりして、とっさ

の判断が難しく、なかなか避難もしづらい方もいらっしゃる。皆さんの周りにも、思い当たる方がおられると思うが、揺れがおさまって、まず自分の命と家族の命が助かっているということが確認できた後、そういった方々の支援を行動としてできるでしょうか。

【参加者】

隣近所の状況は把握しており、私の周りには、そういった高齢の方はいらっしゃらない。地震が起こったとき、家族の安全が確認できたその後には、隣近所の安否確認をし、公助・共助の話になってくると思う。皆がやる前提で動いていただけたらと思うし、私もできることはしようかとは思う。

【町長】

10分～15分、場合によっては2時間経っても、救急車が自分のすぐ近くにまでは来ないかもしれない。本当にこういったことが想定されるわけだが、その時に何ができるのかというところが、今おっしゃられた共助の部分。

避難行動に対して支援の必要な人を助けていこうという制度がある。あらかじめ、私は災害時にすぐ動けないので、助けを求めますといったサインを出しておく。それに対し、例えば自治会の方や近所の方、民生委員だったり助けに行く。総合防災マップの27ページの一番上に「避難行動支援者の支援について」という記事がある。町では、介護が必要な方や障がいのある方の名簿を持っている。その方々を、自治会であったり消防団であったり、民政委員であったりが助けに行くということ。命にかかわることであり、平常時から繋がりを持つことが大切。実際、阪神淡路大震災の時も、東日本地震の時も、熊本地震の時も、こうした活動によって多くの方が助けられている。稲美町は、地域活動の盛んな町なので、誰が助けに行くっていう約束をしていなくても、隣近所で助け合う仕組みというのは、その時には必ず働くと思っているが、そういった意味でも日頃の地域活動は非常に大切だと考えている。

今日、印南地区でふれあいウォーキングがあり、地域の方と一緒に歩きながら、いろいろお話をして歩いたが、その中で「あそこに高齢者の家があるが、ウォーキングは来れないけれども、災害の時には、やっぱり皆で支え合う必要がある。」という話が出た。

それ以外でいうと、どんな災害が怖いと思っておられるだろうか。

【参加者(高校生)】

小学生の時に震度3くらいの小さい地震があり、実際に机の下に隠れたりしたが、小学3年生くらいの児童がそれらの行動を面白かったって言っていたのを覚えている。危機感が薄れているのが怖いと思った。また、地震が起きた際に自分がどう動いたらいいのかわからない。

【町長】

幼い子どもたちというのは、危険度というか、どれくらい自分に対して地震の影響があるのかということは、体験しないとわからないところがある。でも、私たちが見聞きすることによって伝えられることがある。我々は、阪神淡路大震災であったり、東日本大震災であったり、全国で起こっている地震を見たり聞いたりしているので、伝えていかないといけない。また、実際にど

のような行動を取ったらいいかかわからないということだが、先日、稲美中学校で「防災デー」の取組をされており、地域の方と中学生が一緒になって避難所の運営の方法などを学んでいた。ここでは、中学生自身がどんなことができるのかということと一緒に考えるような取組をされていた。また、熊本の益城町に視察に行った時のことだが、避難所の生活において、誰かがしなければいけないことを、中学生とか高校生が率先をしてやっていたという話を伺った。今はイメージできないかもしれないが、我々がいるこのいきがい創造センターも避難所に指定してある。もし地震が起こった時は、このホールも区分けをして、家族単位で、1カ月、2カ月、半年と生活をする場になるかもしれない。その中で、例えばごみの問題とか、騒音の問題とか、トイレの問題とか、共同生活では自分たちで解決していかないとけない問題が出てくる。いろいろなルールができていく中で、子どもたちが率先して、こういう方法でやっていきたいと思います声を上げていただくと、大人たちは素直にそのルールを聞き入れたという話も聞いた。稲美町でも避難所運営マニュアルを作っているが、事前に見ていなくても、みんなの役に立とうという気持ちさえあれば、おそらく自然発生的に行動できていくと思う。ただ、避難所ではこんなことをしなければいけないというのは、いろいろと決まっているので、知らないよりは知っていた方がいいと思う。例えば、ペットに関して言うと、家が完全に倒壊してしまった場合は、避難所に行かないといけなくなるが、犬とか猫とかペットを飼っている方の場合は、ペットを連れて避難したいということになる。ペットのエサ、トイレ、鳴き声などの問題が出てくるが、衛生的な問題もあり、犬や猫はちょっと苦手だという避難者の方もいらっしゃると思う。飼い主としては一緒に避難したいと思っていても、迷惑がかかる部分があるということも事実。一番近い避難所に避難してきているのだが、しばらくすれば、ペット連れの方が皆で一緒に避難できるような場所を作っていくとか、室内は難しいかもしれないが、駐車場や軒下などにスペースを作り、そこにペットを集めたりして対応していく。普通の生活ではイメージしにくいと思うが、地震で避難する時は、必ず人間だけではなくペットの避難も必要になってくる。問題が起これば、その時々皆さんで考えていく必要がある。

稲美町も食料の備蓄はしているが、まさに今どれぐらいあるかということ、備蓄スペースや賞味期限による入替えの問題もあり、アルファ化米で約8,000食。山崎断層帯が動いた場合の建物の全壊・焼失予測が5,677棟ということは、1世帯あたり2人とすると、1万人ぐらいの方が避難することになる。小・中学校や各施設に、数百人単位で非難することになる。町内の備蓄倉庫から持ってきたところで、水が出るのかお湯が沸かせるのかわからない状況だが、アルファ化米に関しては約8,000食しか用意ができない。近年は、地震があったら避難物資が届くような仕組みができていくが、これがもし南海トラフのような広域的な災害の場合は、あちこち同時多発的に被災しているので、避難物資がなかなか届かないということも想定される。避難している人数に対して、それより少ない食料しかない場合、これをどうやって配るかということについても、そこにいる皆さんで考えなければいけない問題となる。数日後には、物資が届くかもしれないが、皆さんで話し合いながら、答えのない問題を解決していかねばいけない。

先ほども話した通り、先日、町の防災訓練を実施したが、地震発生時の全体の流れを確認するような内容で実施した。今後は、避難所の開設・運営訓練のようなものやろうと思っている。できれば、その地域の小・中学校など避難所単位で、その周辺に住んでいる皆さんにご参加いただき、避難所を一から立ち上げる体験をしていただくような訓練形式に変えていきたいと思っています。

いる。

【参加者】

先ほどからお話を聞いてましたら、防災の考え方が近隣の行政と稲美町とは余りにも違いすぎていると思う。防災には二つ考え方があると思うが、一つはハード面。ハード面の治水対策については、用水路等の対策をどのようにしているか。近隣市町では、この15年間の取組などをホームページで公開されている。15年前に大きな台風があったが、私の自治会の公会堂の裏側の低い地区は、床下浸水した。他の行政と比べ、具体的に何が違うのかということ、提案も含めて次のとおり質問をさせていただく。

今から15年前、稲美町も台風により、床下浸水の被害が低地水路周辺の集落の一部には発生した。15年前、私の実家は、台風により床下浸水した1軒です。防災にはハード、ソフト対策の両面対策が必要だと考える。近隣行政では、ハード面は部局として治水対策課や局を設置し、治水等の水路改修工事により15年前の台風程度では、床下浸水は発生しないと数字的根拠を示し治水関連計画を推進されている。工事は完了し、15年前の規模の台風では、床下浸水は1回も起こらないというようなことを明言している。どういった工事をされたかということを明確にしている。

お聞きしたいのは、稲美町が15年前の規模の台風では浸水しないということについて、地域住民に対し具体的にどのような計画を実行したのか。これからの課題として、近隣の行政に比べ、何が遅れ、何をやらなければいけないと認識がされ、優先課題は何かということを町長は認識されているのか。また、ソフト面については、今、いろいろお話いただいたが、これはあくまでも被害を軽減するためには大切なことだと思うが、ソフト面で対策をやっても被害はゼロにはならない。被害をゼロにするには、ハード面の対策をやらなければいけない。近隣の行政は、ハード面を重視し、被害ゼロを目標にしてやっている。一方で、稲美町はソフト面を重視し、被害を軽減するところを重視し、今までやってきている。ハード面の対策をこの15年間やっていないのであれば、何をやるかということを考えなければいけないと思う。また、ソフト面では、地域住民の生命保護、地域機能の確保、財産保護の観点で稲美町のハード、ソフトの中期的に何をやるのか。5年とか10年の期間で何をやろうとしているのか。課題は何なのかということを明確にして取り組んでいただかないと、私から見たら、何もしないで先延ばしされた形が続いていると感じている。議会では、部局の責任者の方は近隣の行政の動向を見ながら、今後の課題として取組させていただきたいと考えますと言われるが、明石市、加古川市、高砂市という事例があるので、実際にこの事例を鑑みながら取り組んでいただきたい。

【町長】

明石市、加古川市、高砂市のように大きな川があるまちに関しては、治水対策課がある。川自体は、県の所管となる。総合防災マップの13～14ページを開けていただきたい。地域を限定してしまうが、見開きの真ん中、上の方に天満小学校があるが、そのすぐ左下が一番色が赤くなっている。これは、国安川も含め、周辺の地域は低いということがよく表されており、被害が出るということがある程度わかっているところ。ただ、ここに関しては、数年前に水路の改修を行い、市街化区域の水をはけさせる水路対策は終わっている。

【参加者】

その点で言われるのであれば、終わっていない。稲美町は、雨水対策と治水対策が一緒だ。これ 2 ヘクタールのところの開発だけをやっている。高いところの水は、何も整備していない低地の方にそのまま流れる。確かに雨水は曇川方面に流れるため、問題は軽減されるというのは間違いないが、平成 30 年の議会で町議会議員が、雨水の量がゲリラ豪雨によって増えており、稲美町の方にズレていたら稲美町もやられていたかもしれないというような質問をされていたと思う。15 年間の雨量を方程式に当てはめると、想定量を超える。

【町長】

いま言われている地区のすぐ東側には市街化区域が広がっており、水を受けとめる能力の低いところ。しかも勾配があるところなので、雨水が集まっていくということ言えば、それは十分に考えられるところである。まずは下流側をしっかりと整備し、曇川に水を送る。そこで水の流れが滞ってしまうと、この上流で水が溢れてしまうので、そういった考え方でここに関しては治水対策をさせていただいている。今後、ゲリラ豪雨など想定外の雨が降ることも考えると、まだまだ整備が追いついてない水路については今後の課題だと思っている。しかし、今までハードの部分は何もやっていないかという、決してそういうことではない。稲美町はため池の多い町のため、もし破堤をすると大きな被害が出るので、ため池の堤体の耐震化などは、毎年、続けているところ。ご理解いただきたい。

【参加者】

治水対策の問題があるのだと、今、お話を聞いて学ばせていただいた。こういうミーティングが開かれているというのは意味のあることで、続けていただきたいなと思う一方で、実際に今日のテーマを考えてみようっていう人たちが、この参加者の人数であるということも事実として受けとめないといけない。

昨日、職場で南海トラフ地震の津波一斉訓練があったが、近隣では稲美町だけが対象地域に入っていない。津波の影響はないエリアという考え方だと思うが、津波が来ないからエリアから除外されていることに本当にこれでいいのかとちょっと不安を感じた。

また、今日はニッケパークタウンで防災のつどいがあり、稲美町も後援で参画しており、たくさん子どもたちが来ていて、家族と一緒に防災について考えるといったことで、楽しみの中に学びがあるというのもとてもいいことだと感じている。以前は、5 月にふれあいまつりが稲美中央公園であったと思うが、消防車が来たり、救急車が来たり、神姫バスが来たり、ああいった楽しいことを踏まえた中で、学ぶ機会や消火器の訓練なども体験させてもらっていた。そういった地域ぐるみで参画いただけるようなものの一つひとつがとても大事だと思っている。

災害というのは、天災もあるが人災もある。最近、体験したものとして停電があった。国岡地域では、夜 10 時から 12 時ぐらいに停電が起き、子どもと 2 人で暗闇の中、懐中電灯で何とか難を逃れた。何の放送もなかったり、周りではどういったことしているんだろうとあたふたする中で、ご近所さんに何とかサポートいただきながら時を待つしかなかった。電気が通らないというのは、本当に不便だなと感じた。また、約 2 年前に、上水道が止まったことがある。蛇口をひねると、茶色い泥水がダーッと出た。上水道が 1 回止まったときには、水道管の中の汚れが全部配

水されるということがわかったが、その時、その水を飲んでいいのかとか、その水でお風呂に入っているのかという情報が出ておらず、非常に困った。

先ほどこの会場も避難所だと言われたが、稲美町は高齢者の方が多い地域だと思うので、避難所を開設した場合に、行動をとれる若い人たちが何ができるのかといったところで、稲美町ならではの課題をきちっと考えないといけないのかなと思う。私は、阪神淡路大震災の時に避難所ボランティアに行った。町長は、ボランティアを育成するという指針を就任の時に話されたと思うが、いざという時に活動できるようなボランティアづくりや、若い人たちをきちんと育てるといったところで、避難所対応のシミュレーションを行い、イメージできるような教育の機会を作って頂けたら嬉しい。

【参加者】

防災訓練は、地域で行っても私は参加しないと思う。理由としては、面倒くさいと思ってしまふところがある。学校でやる防災訓練は、皆がやるし、危機感もある。防災訓練のやり方について、学生に意見を聞くのもいいのではないかなと思う。

【町長】

先ほどお話をいただいたように、楽しみながら防災のことを学ぶという機会は必要だと思う。災害時であっても、何かを食べないといけないわけで、日頃はやらない作り方で、みんなで何かを作り、食べてみる。地域には、自主防災組織があるので、ボランティアとして参加要請をしながら取り組むこともできる。地域のより身近なところで防災を学ぶ機会があれば良いことだと思うし、また、町全体として、イベントのような形で防災を学ぶ機会は必要だと思っている。

停電や上水道の断水に関しては、情報がうまくお伝えできてなかったのではないかなと思う。停電に関しては、我々行政で対応することは難しいが、上水道に関しては町で責任を持って実施しているものなので、どういう原因で濁り水が出たのか、それが大丈夫なのかということに関しては、しっかりとお伝えできるようにしていきたい。伝え方については、11月から稲美町公式LINEでお知らせする仕組みもできたので、これらを活用しながら対応していく。

【参加者】

停電であれば、関西電力のサイトで、どこで停電しているのか、原因は何なのか、復旧状況から復旧のタイミングがいつなのかまで全部わかる。情報がないと言われる方は、自分から情報を取りに行く努力をされてないのではないかな。ここは自助の部分であり、その感覚は必要。大規模災害が発生した場合は、行政の手が回らないのは分かっている話なので、言い方はちょっと厳しくはなってしまうが、まずは情報を取ってくださいと行政が広報・発信してはどうか。

【町長】

南海トラフ地震はいつか必ず起こる。そして、地震発生による被害は自分の身に降りかかってくる。会社や学校などの環境では強制的に防災訓練を行う方法もあるが、行政や地域で防災訓練をやるときには、強制的に実施することは難しい面がある。海外では、国民保護の観点から軍事的な避難訓練を強制的に行っている国もあるようだが、防災も同じ話であり、国民や住民の命を

守るということからすると、皆が参加してやりましょうと、もう少し強く言う必要もあるのかなと感じている。我々行政はしっかりと対応するが、一人ひとりがそういった意識を高めていくことは必要だと思う。そのためには、事あるたびに、そういった機会を作っていきたいと感じている。身近でそういった機会があれば、皆さんもぜひ参加をしてみてください。

【参加者】

総合防災マップはいつ改訂されたのか。

【町長】

表紙の右上にあるとおり、2021年3月に作成。

【司会】

まだ話し足りないというところもあろうかと思うが、時間となったので終了とさせていただく。今後のタウンミーティングの運営に役立てていきたいと考えているので、ご協力いただける範囲でアンケートへの協力をお願いします。

次回は、来年1月から2月ごろに第3回目のタウンミーティングを開催予定としているので、日程等はLINEやホームページ等で周知をさせていただく。